

目標: イエス様の私たちを救う御業は、少女マリヤの信仰を基として始められたことを知る。

聖句: 「わたしは主のはしためです。お言葉通りこの身になりますように。ルカ1:38」

時間: 10分

道具: ホワイトボード、ペン

対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5

留意点: アドベントに入っている。季節がらと、マリヤを「私たちと同じ」信仰者として捉えることを意識していきたい

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	アドベントの第二週目です。 イエス様がクリスマスに降誕されるまで、それに備えていく期間です。 今日はイエス様のお母さんになった人のお話をします。		本日から新約の内容に入る。教会歴(アドベント)を意識させたい この導入は教師からの提示でいいと思う。
課題探究	6分	イエス様のお母さんの名前はなんでしたか。 マリアさんは、神様を信じる普通の女の子でした。その女の子に、突然天使がやってきました。いったいなぜだったのでしょうか。 皆だったら、どう応答しますか。 マリヤさんは、いったい何が起きているのか、と考えていました。 天使ガブリエルは、「神には何でもできない事はありません」と言い、マリヤの年老いた親戚エリサベツも妊娠していることを伝えました。だから、結婚していないマリヤが聖霊によって救い主を産むことも神にはできません、と言いました。マリヤさんはどう答えたでしょうか。「私は主の婢です。お言葉通りこの身になりますように」と言いました。	・マリア ・分からない ・救い主があなたから生まれると告げるため ・分からない ・いいことを教えるため ・はい ・いいえ ・分からない	ほとんどの子供が知っていると思われる。知らない場合は教師から答えを示してよい。イメージしやすくするため必要があれば、14歳くらいと提示してよい。 もし、この問いで、今日のあらすじをほとんど話せてしまう子がいたら、どんどんやらせてもらったらよい。足りないところがあれば、後で教師が補足すればよい。それぞれ、なぜそう思うか聞いてみたらよい。それなりの理由があるはずだし、無くても、考える訓練になる。 正解は、「分からないので、考えていた。」となる。本日のテーマとは違うのだが、この黙考は、キリスト者の代表的品性のひとつであることには、何かの形で触れたい。 「神には何でもできない事はありません」とボードに大書する。事前にボードを用意しておくとなおよい。 ガブリエルの言葉であるが、子供たちにも信じさせたい。
まとめ	2分	イエス様がこの地上に来ることができて、私たちの救い主となって下さったのは、マリヤさんのこの信仰による献身が大きな役割を果たしました。私たちも、マリヤさんのように神様を信じて自分を捧げるならば、それを神様はみんなの救いのために大いに用いて下さいます。 神さまの真実さに信頼する人は、主が大いに用いて下さいます。 暗誦聖句		いろいろな想像させたい。私たちの想像を恐らく超えているからである。 婢(はしため)の語の説明は、有意義だと思う。先の大書の下に、同じように大きく「」を板書したい。聖書と今回のテーマをつなぐまとめの語。 自分を捧げるとは実際にはどういうことか考えさせることも、今後の展開として重要であろう。 無論、結論を出す必要はない。 183号テキスト全体のテーマからの反映として、この事柄を信じさせたい。